

(1) 粒度組成

1981年8月10日に川平湾浅部の7地点で採泥を行ない、底質の粒度組成を調べた。採泥には口径7cmのガラス瓶を用いた(沖水試1980)。採集した底質はピーカーに移し一夜放置して上澄液をすてたのち80℃で24時間乾燥し、さらに110℃・4時間乾燥させ全量を秤った。水洗しながらふるいにかけてのち、110℃、4時間乾燥し各粒度を秤量した。測定に供した底質の全量は360~640gであった。

結果を表5及び図6に示した。

表5 川平湾底質の粒度組成

粒径(μ)	上段 重量比(%) 下段 積算重量比(%)						
	>2000	2000~1000	1000~500	500~250	250~125	125~63	<63
st.I	7.7	13.8 21.5	22.5 44.1	37.9 81.9	14.0 95.9	1.5 97.4	2.6 100.0
st.II	13.3	12.1 25.5	12.5 37.9	34.3 72.2	20.7 92.8	4.7 97.6	2.4 100.0
st.III	8.6	17.9 26.6	21.1 47.6	30.9 78.5	16.5 95.0	2.9 97.9	2.1 100.0
st.IV	1.3	19.9 21.2	33.4 54.6	34.7 89.3	6.4 95.7	0.4 96.1	3.9 100.0
st.V	5.9	20.5 26.4	44.7 71.2	21.8 93.0	3.2 96.1	0.3 96.5	3.5 100.0
st.VI	21.8	26.9 48.7	20.8 69.5	18.9 88.4	6.6 95.0	1.1 96.1	3.9 100.0
st.VII	17.5	37.6 55.0	28.5 83.6	9.4 93.0	1.2 94.2	0.2 94.4	5.6 100.0

1979年の調査と同様、中央粒径値は湾奥~湾央のst.I~st.IIIでは中粒砂(250~500 μ)、湾央~湾口のst.IV~st.VIでは粗粒砂(500~1000 μ)、そして湾口のst.VIIでは極粗粒砂(1000~2000 μ)であった。

また塩酸処理(沖水試、1980)の結果を表6に示した。st.IVを除き湾口に近づく程低い残留率を示した。st.IVの近くには川平部落の排水口(生活廃水は少なく雨水が大部分)があるため陸土の流入が多いものと思われる。

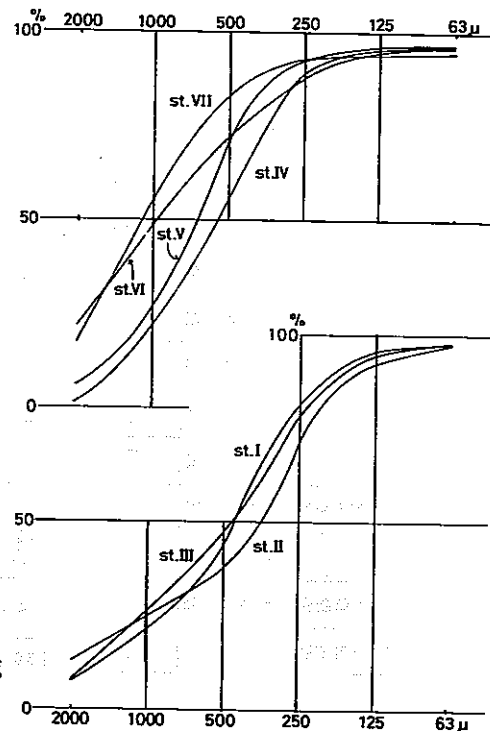


図-6 川平湾底質の粒度組成